

順位など、適正配置にも十分な計画を立てるようお願いいたします。

それから、施設の利用状況や施設の現状把握などを踏まえ、今後の維持管理費、改修費用及び取り壊し費用など、長期的な財政運営を分析しなければなりません。そして長期的に利用する施設を選別し、計画的修繕と延命改修など、支出を抑える意味でも早期に対応するようお願いしたいと思います。

それから、4点目として人口規模に応じた公共施設の再編や統廃合が必要な場合は、関係住民が納得できるよう丁寧な説明と十分な協議を重ね、早目の対応をお願いしたいと思います。また、今後の公共施設の現状と整備方針について、住民にわかりやすい情報提供をお願いいたします。

いずれにしても、公共施設整備は建設費を初め、維持管理費、取り壊し費用等、多額な費用がかかりますので、計画的な行財政運営を推進し、財源についても今までとは違い、厳しい時代を迎えているだけに、積極的に行政改革を進めながら財源の捻出に努力をしていただきたいと思います。

時間がありませんので、教育委員会関係につきましては、次回以降にさせていただきます。

これで終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、松尾議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実です。

通告書に基づき、5項目について質問いたします。

質問1、地域医療の現状と課題、看護師確保等について。

- (1) 県立病院統合による厚生連病院への影響について伺います。
- (2) 糸魚川市の看護師確保策の成果と課題について伺います。
- (3) みんなで支える地域医療講座の成果と課題について伺います。
- (4) 通院の交通手段、バス路線とダイヤ、特に糸魚川総合病院での乗り継ぎのメリットとデメリットについて伺います。

質問2、新駅押上駅開業と新しいまちづくりについて。

- (1) 押上駅開業日、開業前、開業後のスケジュールについて伺います。
- (2) 駅建設周辺地区及び地区住民との連携について伺います。
- (3) 駅周辺まちづくりに必要となる土地確保について伺います。
- (4) 市民全体でのマイレール意識の醸成について伺います。
- (5) バス、タクシー等の駅前乗り入れなど公共交通システム全体の利便性の向上について伺い

ます。

(6) 通学する高校生への利便性や、子供たちの居場所づくりについて伺います。

(7) 周辺飲食店等と連携した観光案内機能や、富山県朝日町ヒスイ海岸のヒスイテラスを参考とした交流拠点施設整備について伺います。

質問3、台風19号による大雨洪水住民避難対応等について。

(1) 台風19号による大雨洪水住民避難の状況について伺います。

(2) 避難所の設置と誘導が適切なものであったのか伺います。

(3) みずから避難することが困難な方への対応について伺います。

(4) 降雨量の予測と河川の氾濫可能性の関連を瞬時に判断して避難勧告と指示をすることが自治体に求められていると思います。情報システムの構築と運用、河川氾濫と避難のシミュレーションについて伺います。

質問4、糸魚川市駅北大火からの教訓と備え、防災教育・防災視察の現状と課題等について。

糸魚川市駅北大火は、2016年12月22日に昼前に発生し、翌日夕方の鎮火まで約30時間続いた大火災で、その範囲は中心市街地である糸魚川駅北側から日本海まで南北方向に大きく広がりました。現在、復興のまちづくりが進んでいますが、火災に遭われた皆様の生活再建が進み、年の瀬をご健康に過ごされますことをこの場より祈念申し上げます。

また、現場での消火活動に大変な働きをされた消防関係の皆様、被災者支援にご尽力いただいております行政の皆様改めて感謝申し上げます。二度と火災が起きないことを切に願い、以下質問します。

(1) 大火の原因となった、火元の建物構造、木造密集地域の都市構造、初期消火対応、飛び火による延焼拡大の状況について伺います。

(2) 二度と大火を起こしてはならない。しかし、もし同様な火事が生じた場合の消火対応のシミュレーションについて伺います。

(3) 大火の記憶のコンテンツ、展示方法、解説について伺います。

(4) 大火から3年目となる12月に、大火の教訓と備えを市民全体で共有する取り組みがあれば伺います。

(5) 糸魚川市駅北大火1年事業復興まちづくりシンポジウム2017に寄せられた子供たちのメッセージの取り扱いについて伺います。

質問5、糸魚川市の責任で進める糸魚川市駅北復興まちづくり計画について。

(1) 現在建設中の駅北広場建物のイメージについて伺います。

(2) 現在建設中の雁木のイメージについて伺います。

(3) 現在検討中の「にぎわいの拠点」を整備する用地の取得について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、県立病院の経営改善に向けて、県立病院経営委員会が役割・あり方に関する提言を行っており、厚生連病院についても影響があるものと捉えております。

2 点目につきましては、市が貸与している修学資金を受けた看護師の約 6 割が市内就職をいたしており、一定の成果を上げていると考えております。課題は多くの方から看護職に関心を持っていただくことと、支援体制をより浸透させていくことであると考えております。

3 点目につきましては、県と市が共同で実施している事業で、講演会や講座の実施により地域医療の現状について、市民の理解を深めていただいております。今後さらに多くの市民から理解していただくことが必要であると考えております。

4 点目につきましては、糸魚川総合病院を目的地とする利用者の声が多かったことから、乗りかえ拠点として設定いたしましたものでありますが、不便と感じている声が上がっていることは承知しており、改善について検討いたしております。

2 番目の 1 点目につきましては、令和 3 年 3 月の開業を目指して、今年度及び 2 年度は施設整備工事を行い、開業後は利用促進を図ってまいります。

2 点目につきましては、地元の押上新駅設置連絡会の活動と連携して、開業後の利用促進を図り、地域の活性化につなげていく必要があると考えております。

3 点目につきましては、下り線側で駅ホームと連絡するスロープ、階段等設置のために必要となる用地を購入させていただく予定でございます。

4 点目につきましては、利用促進のためには、マイレール意識の醸成が重要であると認識いたしておりますので、新駅を身近に感じていただく取り組みは必要だと考えております。

5 点目につきましては、バス路線を生かし、鉄道とバスとの乗り継ぎを考慮したダイヤ設定を行うなど利便性向上に努めてまいります。

6 点目につきましては、駐輪場の整備や乗り継ぎを考慮したダイヤ設定により、高校生への利便性向上を図ってまいります。

7 点目につきましては、地元を初め周辺の飲食店や観光施設と連携した地域活性化の取り組みが重要であり、それらを踏まえて受け入れ体制の整備を進めていく必要があると考えております。

3 番目の 1 点目につきましては、早い段階で避難準備・高齢者等避難開始情報や避難勧告を発令し、12 日正午時点で市内 16 カ所に避難所を開設いたしました。

2 点目につきましては、状況変化に応じて適切に対応してきたものと考えております。

3 点目につきましては、市では避難行動要支援者名簿を地区に提供しており、それらを活用して各地区の共助により、避難支援をしていただきたいと考えております。

4 点目につきましては、気象庁の危険度分布情報や洪水ハザードマップが、その役目を果たしていると考えております。

4 番目の 1 点目につきましては、古い木造建物が連担する地域から火災が発生し、消防では、初動時から出動可能なポンプ車を全て出動させて消火活動に当たっていましたが、フェーン現象等により火勢が拡大、さらには飛び火により同時多発火災となったものであります。

2 点目につきましては、木造住宅密集地区への火災を想定した訓練において、火災延焼シミュレーションを活用し、消火技術の向上に努めております。

3 点目につきましては、焼けたポンプやホースなどの実物展示のほか、大火の概要や復興の様子

をバナー掲示や映像を使って解説いたしてまいります。

4点目につきましては、今年度は12月21日に復興まち歩きの日として、被災地でのイベントを予定いたしており、大火の教訓を振り返る機会にいたしたいと考えております。

5点目につきましては、1周年事業終了後、市役所1階市民ホールで展示をし、その後、各学校へ返却いたしておりますが、データとして保存してございます。

5番目の1点目につきましては、交流のできるホールと大火の記憶を伝承するエントランス、さらにチャレンジできる厨房を配置いたしてありまして、誰もが訪れやすい開かれた建物をイメージいたしてあります。

2点目につきましては、民間の再建が進みやすくなるよう木造や鉄骨など異なる工法を採用しており、全ての景観・不燃化ガイドラインにのっとった穏やかな調和をイメージいたしてあります。

3点目につきましては、現在まちづくり会議で駅北全体のまちづくりについて検討いただいております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それでは、地域医療の2回目の質問です。

県が進める県立病院の統合は、経営が厳しいところはやめていき、住民に必要な地域医療がなくなるのではないかと単純に考えてしまうのですが、いかがですか。また、この流れが厚生連病院の統合へと波及しないか心配です。米田市長が会長を務める地域医療連携推進会議において、どう分析をしていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

県立病院が、財政負担の軽減だけで統合だとか再編を進めることはないというふうに考えておりますけれども、県が主体となって全県の持続可能な、あるべき医療提供体制を示していただいて、再編・統合を含めた対策を講じてもらいたいというふうに考えております。

一方、厚生連病院におきましても、個別の病院においては経営が悪化している病院もありますし、また、医療資源が不足しているところもあるものですから、国の再建要請、再検証要請等も踏まえながら、機能の見直しが今後行われるのではないかとというふうに考えられます。県立と厚生連が、ばらばらではなく、連携して県内の地域医療体制を維持するよう協議会としても取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう少しお聞かせください。

県の財政事情という県の都合で進める医療の縮減が、厚生連の医療の縮減を招いて、結果、糸魚川総合病院と糸魚川の地域医療に大きな影響が出るのが心配です。その点については、どう分析していますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

県内の地域医療体制を維持するためには、県立病院、それから厚生連病院の両立、これが不可欠だというふうに考えております。県立病院がない当市におきましては、糸魚川総合病院が唯一の基幹病院でありますので、その機能維持に向けては、全力で取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

県立病院統合の影響があろうとも、糸魚川の地域医療体制は確保されるように努めてください。強く要望します。

続いて、市内の看護師の数について、また、これからの見通しについて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市内におけます看護師数については、最新の統計資料によりますと286名となっております。今後、現役を退く看護師、それよりも新たに市内で看護師につかれる方のほうが少ないということが推測されますことから、現在の水準の看護師数を確保していくというのは、これから厳しくなるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川総合病院への看護師配置は、十分なものでしょうか。また、雇用環境の改善はあるのでしょうか。看護師の雇用で県立病院との格差はないですか。あれば、その解消を進めるべきではないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院からは、施設基準に必要な看護師数というのは配置できておると。ただ、今後も維持していくことにつきましては、いずれ厳しい時期が訪れるものというふうにお聞きしております。

看護師の雇用環境につきましては、病院の状況をお聞きしながら、働きやすい環境づくりに向けて病院と一緒に取り組んでいきたいというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

看護師育成の取り組みについて伺います。

まず、子供たちが看護師を目指すきっかけづくりはどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

子供たちに看護職への関心を持ってもらえるよう、県、学校、病院との協働によりまして、小・中学生に看護師を紹介する出前講座、高校生の1日病院体験などの事業を実施し、参加者のアンケートからは、医療への仕事を学べただとか、病院内の仕事がわかったなどの、そんな感想をいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私は以前、青海中学校のポスターセッションにお招きいただき、看護職を目指したい生徒さんの熱い思いを聞いて感動しました。教育長は、ご存じですよ。その思いを具体化したいとは思いませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

青海中学校のポスターセッションの話、ありがとうございました。

子供たちの将来の夢の実現に向けて、市あるいは教育委員会としてしっかり支援してくというのは、本当に大事なことだと思っています。

また、将来の職業選択に当たっては、やはり市の現在の状況とどういいますか、それをしっかり子供たちに情報提供をした上で、やっぱり選択していただく必要があると。そのためにキャリア教育ということになるんだろうと思います。

それで、看護師については、地域の必要な人材だということは十分把握しておりますので、それに向けての取り組みというのは、やはりやっていく必要があるというふうに教育委員会としても捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そうですね。それで糸魚川市は日本一の子供づくりを目指しています。ならば、看護職を目指す子供への糸魚川市のサポートも日本一であるべきです。例えば進学の情報提供、アドバイス、修学資金提供など、中学、高校、大学と切れ目なく継続的に行うことだと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

私、先般、糸魚川東小学校の40周年記念式典に出た際に、子供たちが将来何になりたいかという掲示が廊下にずっとしてありまして、その中で医療・看護職を目指すという子供はかなりいたように思っています。そういったことで小学生の段階で、そのように考えている子供たちがいる。また、中学校ではインターンシップを5日間取り組んでいるということなんですけども、それに加えてやはり高校、今おっしゃったような大学との連携も図りながら、やはり人材確保をしていく必要があるというふうに私は捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

教育委員会としては、そういう答弁なんだろうけど、もう少し具体的なサポートというものを考えていただきたいと思います。看護系学校への進学をサポートということを考えていただきたい。これは必要なことだと思います。担当課として、看護大学、専門学校、準看護学校に進むことについて、生活環境や経済的な負担などを把握し、何のサポートができるかを検討していますか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

現在、修学資金貸与のほかに修学資金借入れによる返済金への支援、それから新幹線通学費の

助成等を行っているところでありますけども、看護系大学、看護系学校への進学は、学費でありますとか実習費などで多額の修学費用を要するということでもあります。修学生にとって大きな負担となっていることを認識しておりますので、これからも修学生の実態を把握しながら、引き続きサポートに努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしくお願ひいたします。1つの提言になろうかと思いますが、子供たちが看護職を理解し、実際に進学から就労まで進むときのガイドとなるテキストを厚生連や県と連携して、つくってはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

子供たちが看護職をより理解し、看護職を志していただくとともに看護職につくまでの参考となるような、今、田原議員からありましたそういうテキストというのは必要ではないかなというふうに考えております。厚生連だとか県と調整しながら、その作成について早急に検討してみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひ検討して、実現していただきたい。進学から就労まで、そして就労から生活まで、多くの人がかかわり、細やかなサポートがあることで糸魚川で働いてくれる看護師が育つと思います。これは全市で取り組むべき課題ですが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川で生まれ育った子供たちが、看護師として糸魚川で就職していただけるよう、進学から就労までのサポートについて、県と市、医療機関が連携しながら取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

実は、その先も大事なんですね。糸魚川に住んで看護師さんをやってくださる方、こういう方



を育てていきたいということなんですけど、そこで、地域医療講座の成果と課題へとつなげてまいります。

この講座が、医療・介護の専門職の学びと連携に役立ち、また、市民の理解を進めるものと大変評価はしていますが、ただ、救急搬送、在宅医療、病院を知ろうの3つのテーマで話し合っているものの、地域医療の最重要課題である看護師不足の解消の話し合いがないのはなぜか。これこそが行政と病院と市民が連携して話し合うべきことですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、田原議員からありました講座については、地域の医療資源等を有効活用し、地域の皆さんで持続可能な地域医療を学んで考えていくということを目的として開催しておりまして、看護師不足の解消については、これまで取り上げてきておりませんでした。これは田原議員のご指摘のとおりであります。

しかし、看護職の人材確保というのは、本市にとって、地域医療にとって最重要課題でありますことから、この講座で取り上げる、取り上げないにかかわらず、引き続き、県、病院と連携しながらこの対策に取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

やはり市民とともに、この課題の解決に向けて進めていく、そのリーダーは糸魚川市だと思うんですよ。米田市長が頑張ってくださいってことは、私もよくわかっておりますので、ぜひともお願いしたいと思います。

それで、少し厳しい話もしたいと思いますが、これはあってはならないことですが、もし糸魚川総合病院が看護師不足で、現在の機能を果たせなくなったらどうなるかを考えておくべきです。みんなで支える地域医療と今は言うてはいられても、糸魚川総合病院の救急患者の受け入れがなくなれば、救急搬送の話もできないということですよ。終末医療と、みとりが病院でできなくなったとき、在宅医療だけでみとりができるのかということですよ。病院を知ろうといっても、その病院がなくなれば、知ることもできないということですよ。問題は、行政にその危機感があるかということですよ。この点、改めて米田市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

危機意識はあるかと問われればあると答えるわけでございますし、あるからこそ、今現状の糸魚川総合病院のいろんな事柄が、やはりうまくいっておると捉えております。行政と今タッグを組ん

でおるということをご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民の命は、市長の働きにかかっています。糸魚川の地域医療の確保をよろしく願いいたします。

では、通院のバス路線とダイヤ、病院での乗り継ぎの状況と課題の詳細を担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

市長答弁にもございましたように、通勤・通学のお子さん以外の日中のご利用の多くの方の利用目的地として糸魚川総合病院というのが挙げられておりましたので、複数の路線が乗り入れている利点を生かせるように拠点として設定したものでございます。また、これも地域の声として乗り継ぎ拠点、糸魚川総合病院に行ったついでに、中央大通り線沿線にあるお店等で買い物ですとか、そういうところに用足しをしたいということも声としていただきましたので、新しい路線として路線バスの中央大通り線というものをこの春から運行しております。数は少ないですが、これによる便利になったよというような声も寄せられているところでございます。

ただ、それより圧倒的に多いのは、やはり乗り継ぎで不便になったという声を多数寄せられております。これに関しましては、乗り継ぎに関する情報がわかりづらくて、どうやって乗り継いでいいのかわからないという不便感ですとか、あとバスにおりて、乗ってという、お年寄りには負担となるというようなことが挙げられております。こういう乗り継ぎを必要とするようなバスの利用方法について、私どもからの情報発信というものが足りなかったのか、もうそこで乗り継ぎが悪いというようなマイナスイメージがお客様に持たれてしまったということは大いにマイナス、本当に反省すべきこととして周知方法ですとか乗り継ぎの環境、また乗りかえのときの低床バスの更新というものに、今後改善してまいりたいというふうを考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この課題は、庁内では建設課と、それから健康増進課と両課で現状を把握して、病院や市民とも話し合っ解決に当たっていただきたいと。これからどのように進めていくか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

やはり公共交通は、交通政策だけではなくて、福祉、医療の分野と大きく密接に関係しますので、議員ご指摘のとおりかと思えます。バス利用の促進のためには、常にお客様のニーズを捉えた改善というものを常に継続していく必要があるというふうに考えておりますし、ダイヤの面についても同様に、許される待ち時間というものを限られた本数ではありますけど、その中でとっていくというのが大事かと思えます。

乗り継ぎの負担軽減につきましても、またどうしても会社というものもございまして、その辺とも庁内に加えて、会社ともその辺というのは話し合いを十分持って改善を続けていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院においては、バスを待つ方に雨風や寒さをしのげるよう病院玄関フロアを待合所として開放いただいておりますなど特段の配慮をさせていただいており、大変感謝しております。今ほど五十嵐課長からも話がありましたように、市の関係各課で現状を把握しながら、課題解決に向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

では、押上駅開業の2回目の質問です。

押上駅の開業日、それから開業前、開業後のスケジュールのあらましにつきましては、先ほど伺ったのですが、先のものであって、すぐにそのときはやってくるんですね。今何かつくっているプランがあれば、教えていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

正直申しますと、まず駅をつくるというところに私どもの組織のエネルギーを大分傾注しておりますところですが、これまで地域の、特に押上地区の皆様とは、この駅ができた暁には、駅を使ってだけではなくて、駅をきっかけにして地域をどういうふうに行っていくかということを押上新駅設置連絡会の皆様と意見交換というものをさせていただいております。時には厳しいお言葉をいただいたり、私どものほうから市の考えを率直に申したり、ある意味率直な意見交換もできるような関係というのもつくりたいと思っておりますけど、これからは、押上の方が先行しておりますけど、

開業機運の醸成ですとか、できたことがゴールではなくて、その先で、じゃあ押上地域をどんなことにしていきたいのかということの実現のために行政もゴールと考えることなく、その辺についてはこれからコミュニケーションを深めて、やりとりをしていかなきゃいけないなというふうを考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

駅周辺まちづくりに必要となる土地確保について、もう少し詳しく教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まずもっては、開業に向けてどうしても必要になります駅のホームへ連絡するスロープや階段を設置する駅本体工事のために必要となる土地、具体的に申しますと県道の海側の東側といいますか、県道沿いの土地を購入させていただくということで、地元の方のご協力もいただきながら今現在、用地測量を進めております。また、土地の所有者の方ともお話をさせていただくところがございます。そのほかの駅周辺まちづくりに必要となる土地ということに関しましては、新駅周辺のまちづくり構想というものもございますので、周辺に立地いたします施設資源の有効活用ということを意識しまして、その辺の必要性というものを見きわめて対応していきたいというふう考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

開業のスケジュール、それから地区や住民との連携、それから土地確保についての説明を受けましたが、その中で重要課題は何だとお考えでしょうか。また、その課題解決のための行政対応はどうなりますか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

つくるのは、まず鉄道駅でございますので、やはりいかに多くの方からご利用いただけるかとい

ったことが、まず一番大切な要素かと思えます。そのためにも高校生のご利用だけではなくて、地元の方、市内外の方から利用いただけますように、先ほどもちょっと触れましたが、地域の利便性ですとか観光資源など、ポテンシャルを生かすような取り組みというのが必要であるというふうに考えております。また、駅と接続する二次交通も重要な要素であるというふうに考えております。

これも先ほどとちょっとかぶりますが、それと同じように私は、やはり新駅をきっかけにした地域の皆様が、自分たちの描く地域の将来像というものを描いたまちづくり、それを目指すところ、それが加速されるということが重要なんじゃないかなというふうに思っております。地域の皆様のお言葉をお借りするんであれば、長年の悲願であった押上新駅でございます。

ただ、駅というのは、やはりツールでありまして、主役ではないというふうに考えております。そのツールを生かすために地域の皆様の頑張りや行政の頑張りやうまく掛け合わせていくことが必要だというふうに考えておりますので、これもさっきと重なってしまいますが、これから地域の方と、これまでも同様にコミュニケーションというものを深めて、押上の将来のためのまちづくりというところに市がどういうことをできるのかというところの話し合いを続けていきたいと思えます。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ご答弁としては、そのとおりかと思うんですけども、もう既に押上区からは、市長要望の場においてもかなり具体的な課題が出されてると思うんですけども、駅施設の周辺には、こういうものが必要なんじゃないかというご提案もあろうかと思えますけども、そういったものを市内でよく検討して、そして地元に戻しているのかと、そこが気になるんですけど、そういった意味での課題というのはどんなものがあるか。そして、そこへの行政対応はどうかということ聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、市のほうと地元のほうの考えとる周辺、まちづくりのスケジュール感というもののすり合わせというのが必要かと思えます。糸魚川市のほうでは、まずは開業のためにどうしても必要な部分というものを先行して整備させていただきまして、そこがいつも地元の方とすれ違うところなんですけど、その利用の形態ですとか押上の皆様のまちづくりというものを見ながら、例えば海を使った地域の活性化とか、海川の下流側の左岸のスペースを活用したいろいろな誘客の取り組みとか、そういうところに持っていかなくちゃいけない。そのときに市として、例えばそれは建設課なのかどこなのかというのは、またそのときに考えなくちゃいけないんですけど、今現在は建設課が窓口になって、その辺の整理というものを、これまで進めてきたというふうに私は考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川市立地適正化計画というものがあります。30年後も持続するまちづくりということにおいて、立地適正化計画と押上駅周辺まちづくりは、同じ目的、同じ方向で進むものと思います。また、立地適正化計画での押上駅と駅周辺が担う役割を明確にして、地区や住民と協働して立地適正化計画と押上駅周辺のまちづくりを進めるべきと思います。この点、行政の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まずもって立地適正化計画は、もう確実に訪れる人口減少というものに対応するために、人口密度を一定のエリアで確保して、効率的な行政運営を目指したいと、乱暴な言い方ですとこういう言い方になろうかと思えます。計画に定められた、これ押上駅周辺も居住誘導区域というものに定められておりまして、交通利便性を踏まえて、その辺は駅もできますし、ある意味、バスと鉄道の結節点にもなりますので、そういう今後の利便性というものを考えまして、居住誘導区域というものを選定いたしました。その周辺の新駅を活用したまちづくりというものを進める中で、地域にとって、またこれから押上地区が移転されてくる方に選ばれる場所になるように、地域の方と一緒に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

立地適正化計画と一体となって進めるというふうには理解してよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

立地適正化計画と一体というよりは、立地適正化計画の考え方で、今、押上駅周辺は居住誘導区域に糸魚川市のほうは定めておるということでございますので、一体というよりは糸魚川市としてもそういう居住を誘導してくるエリアとして、そのあたりに位置づけたいということでご理解いただけないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

であるならば、今後、市長行政が責任を持って知恵を出して、予算をつけて、30年後を見据えた押上駅周辺まちづくりを進めるということによろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

新駅設置がゴールではないというふうに、私申しました。立地適正化計画で糸魚川市は、そこを居住誘導区域に定めたということも、私申しました。そのために地域の方が、じゃあ何をするかということも、これは重要な要素でございます。押上の方は、居心地のいい押上というものをスローガンに地域づくりというものをやっておりますので、それらについては30年先を見据える、20年先を見据えるというのが立地適正化計画ですが、駅を見据えて今から取り組むことで30年、20年先の地域のあり方というのは変わってくるかと思っておりますので、その辺は糸魚川市も同じ歩調を持って進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

押上新駅設置対策委員会において、新駅押上建設は、押上区のみのことではない。駅を拠点とした地域づくり、まちづくりであると何度も確認されております。駅周辺の土地の準備に、押上区は協力を惜しまない。地元の熱意と協力の姿勢は、これからも行政に示していくとお話を伺っています。このことは市長行政もご存じですよ。ならば、市は何をするのか、改めて伺いたいと思いません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

地元の皆さんに新駅設置に関して本当に協力的にご尽力いただいとるといいますか、ご協力をいただいとることにしましては、本当に感謝申し上げたいというふうに思っております。今後、計画を進めるといったことにつきましては、やはり市も行政もしっかりやっていきたいというふうに思っておりますが、地区の皆さんと一緒に連携して進めるといったことが第一義だと思っております。役割を明確にしまして、しっかりと進めていきたいといったことで、責任を持ってといったこととございますけれども、連携しながらしっかりと進めるといったことが肝要じゃないかというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

鉄道利用につながる一番の課題と私が思います高校生の待合室の確保について伺います。

直江津方面行きホームに隣接する場所に、雨風や寒さをしのげる場所を誰がどのようにつくるのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

これも地域の方と何回も意見交換をしておるところでございます。今のところ糸魚川市としましては、押上から直江津方向に向かう下り線のところには、これは地域の方からアドバイスをいただきました。上屋に加えて北風を防ぐ縦方向の壁、これを設けて、少しでもそういう厳しい時期を乗り越えていただきたいということでございます。具体的に待合室というものは、下り側のほうに設置するのではなくて、今のところは日中に糸魚川方面に、もしかしたらお買い物に行くニーズがあるかもしれない、町なかのほうに用足しに行くニーズがあるかもしれない、そういうお年寄りのためということ意識しまして、上り線側のほうに椅子で、数で言うと6スペースぐらいの上屋つきの待合室というものを設定する予定でございまして、北側については、これも繰り返しになりますが、利用動向を見ながらの対応ということにさせていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

利用動向を見ながらということは、利用が少なければつくらないということですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私どもが以前に行いました需要予測では、大概の利用者はやはり高校に通うお子様方でございます。

ただ、そういうお子様方の利用形態といたしましては、一定の時間に大量の移動があるというのが特徴で、なかなかじゃあ一定の時間の大量、当然来るときに、通学するとき待合室というのは余り要らなくて、帰りに要るんかと思うんですけど、じゃあその一定の時間の大量の量というものに関して、どの程度スペースを用意していいとか、その辺もまだ利用される状況を見ないとわからないということもございますので、一概に今からつくらない、つくるということを決めつけたということではございません。



以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

たくさんの課題があるかと思います。行政は、1年先の開業に向けて地区及び住民の皆さんとさらにコミュニケーションを深めていただきたいと思います。

この質問の最後に、ヒスイ海岸と鉄道でつながるパートナー、朝日町に昨年できたヒスイテラスの機能と、利用者について担当課から詳細を説明していただき、また、これからのヒスイ海岸や鉄道で連携するまちづくりについては、副市長の見解を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ヒスイテラスにつきましては、資料によりますと、朝日町の観光交流拠点施設として昨年の10月にオープンしたものでございまして、観光交流、イベント等を通じて、ヒスイ海岸周辺のにぎわいを創出するとともに、住民が自由に集い、活躍できる場として地域活性化を図ることを目的にしているとされております。

施設といたしましては、イベントホールやレンタサイクル、シャワールームや更衣室、調理室のほか、ギャラリー、オープンテラス、屋上テラスが設置されておまして海岸へのアプローチとサイクルステーションとしての機能を有しているものであります。

また、利用者につきましては、地元の方のほか、自転車利用や海岸での石拾いなどの観光客とお聞きしておまして、昨年の10月のオープンから1年間で約4万4,000人の入り込みがあったということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

藤田副市長。〔副市長 藤田年明君登壇〕

○副市長（藤田年明君）

お答えします。

11月末ですかね、糸魚川市と朝日町の議員連絡協議会に私も招かれまして、私のスケジュールにはなかったんですけども、ちょっと早目に行って、ヒスイテラスのほうを見学させていただきました。本当に立派な施設で、ロケーションもいい場所にできてるなと思いました。議員さんの皆さん来る前に、少し時間があつたんで、担当者の方からお話を聞いたんですけども、やはりキャンプシーズンのグリーンシーズンには、本当に多くの方が見えられて、要望とすればやはり直営のお店が欲しいという要望がかなりあるんですけども、結果的には通年を通して、特にこの冬の時期については、非常にお客さんが少なくなるということで、通年のお店というのはどうしても開けないということで、移動車による販売みたいなのを繁忙期のときにはお願いしてということで、運営にはかなり苦労しているようなお話も伺っております。

先ほどの松尾議員のお話にもあったとおり、やはり施設をつくるからには、そういった、いわゆる費用対効果、そういったものをしっかり考える中で、当市のヒスイ海岸、そういったものをどう活用していくかというのは、まだまだ考える余地があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう少し期待したんですけども、既に日本海北アルプス広域連携の観光の連携ですか、の中でもいろんな話されてると思いますし、鉄道がつながってる、駅がつながってる、ヒスイ海岸があると。これお互いつながって生かしていきましょうよということじゃないでしょうかね。これから考える余地がある。とても残念です。もう一回お答えいただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

藤田副市長。〔副市長 藤田年明君登壇〕

○副市長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに田原議員言われるように朝日町もヒスイ海岸という形で名を売っておりますんで、そういった面では北アルプスの広域連携会議もありますので、また朝日町のほうは、本当に駅のすぐ裏がヒスイテラスという点もありますので、そういった連携というのは、もう十分考えられるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく申し上げます。

では、台風19号による大雨洪水住民避難対応等の2回目の質問です。

住民避難の状況について、もう少し詳しく説明を願います。また、そこで見えてきた課題があれば教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

10月12日の午前8時30分に市内3カ所に自主避難所を開設し、5人が避難されております。同日正午には、警戒レベル3、避難準備・高齢者等避難開始情報を市内に発令し、16カ所に避難所を開設いたしました。先に開いた自主避難所3カ所は、そのまま避難所に移行しております。避難所については、その後、2カ所追加で開設し、市で開設した避難所には最大で1,344人が避難をしており、13日午前9時50分には、避難所から全員が帰宅しております。また、各地区に

において、自主的に避難所も開設していただいております。

見えてきた課題につきましては、災害発生前に各家庭で準備することの啓発、それから避難所の開設数、避難行動要支援者への地域での対応が挙げられると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

避難所の設置と誘導が適切なものであったのか、市民からいただいたご意見を紹介しますと、まず12日夕方からの市の対応において、避難所として市民図書館が適切であったのか。市は1カ所で管理したほうが楽なので、図書館で対応しようとしたのではないか。なぜ狭い図書館が避難所なのか。トイレは和式で不便だということです。この意見に対しては、どう説明されますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

12日午前8時半に自主避難所を設けた際に、じゃあどこを避難所にするかということで検討したんですけども、その中の1つが市民図書館であります。同日正午には、16カ所に避難所を開設することになりました。その後、市民図書館がいっぱいになったことから、市民会館へ移動することになりましたけども、当初、市民図書館に決めるときに市民会館も検討しておりまして、避難者数が読めなかったことから、それから図書館のほうは畳の部屋があって、避難者の方がくつろげるということで、市民図書館を選定したものであります。それで、移動距離が図書館がいっぱいになっても移動距離が短くて済む市民図書館ということを正午に、避難所を開設したときに選定しながら、後ほど市民会館を追加したという状況であります。

なお、市民図書館の1階につきましては、多目的トイレがあるということ、それからエレベーターがあるということで、トイレの使用には支障がないというふうに思っておりましたけども、もしかしたらトイレの案内等でわからなかったのかなというふうに反省しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

全国でも、台風19号の避難対応における再避難が課題となったとネット記事にありました。糸魚川でも暴風雨が大変な状況になってから市民会館へ移動指示があったことや、浦本地区の避難所がなぜか高台の旧浦本小学校で、後で避難所を浦本公民館へ移したが、高齢者や避難困難者にとって大変な事態となったという意見もいただいております。実際は、いかがだったのか確認されていきますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

浦本地区の避難所でありますけども、旧浦本小学校の避難所の設定につきましては、当時、暴風波浪警報が発令されておりました、6メートルから7メートルの高潮の危険性があるという情報がありましたので、それから8月22日に浦本地区に大雨が降った際に、地元から旧浦本小学校を避難所にするという、開設できないかという要望があったということも勘案して、旧浦本小学校を避難所として設置したものであります。

しかしながら、確かに家から遠いところにあるものですから、地元のほうから地区公民館がいいという話を受けまして、変更したということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

山間部や河川付近にお住まいの、特に高齢者や避難困難者は不安に感じた。大きな被害はなかったようだが、初動体制はかなり反省点があるように思う。迅速・丁寧な検証を願うという市民からのご意見を最後にご紹介します。今後の対応を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

避難勧告の発令につきましては、市長答弁のとおり適切に対応できたのではないかというふうに思っているところでありますけども、避難所の開設数のあり方、これにつきましては、今回の事案を踏まえて検討していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

台風19号の避難対応を見て、降雨量の予測と河川の氾濫可能性の関連を瞬時に判断して、避難勧告と指示をすることが自治体に求められていると。市長からお答えをいただいておりますが、改めて今後の対応を伺いたいと思います。情報システムの構築と運用、河川氾濫と避難のシミュレーションはどのように進めていくのか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

確かにおっしゃるとおりでございます、瞬時に、瞬時といいますか早い段階で避難の指示を出すということが市の役目だというふうに思っております。今回も気象庁、それから新潟地方気象台、

国・県の災害情報のシステム、水位情報等をリアルタイムで確認しながらハザードマップを見て、どの範囲に避難勧告を出すかということを検討した上で対応しております。そういったやはりシミュレーションというのは、今言った気象庁の危険度分布情報ですとかハザードマップが、その役目を果たしておると思いますので、それを受けて、いかに災害対策本部で責任あるものが検討するかということだと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

非常時の対応、ひとつよろしくお話ししたいと思います。

もう一つ、これは私なりに大事な話かなと思うことをお話ししたいと思うんですけども、台風19号の前でしたか、西海地区の秋のイベントに伺った折に海川氾濫の状況を地元の若い人たちに、この前の台風で川の水はどうだったんだやあと聞いてみました。すぐに、昔うちの建物のとこまでずっと水来たことあったわと。あるいは、いやあと少しで危ないともあったよね。どこのあたり弱いんで心配なんだけんなどのお話も出まして、もしもあと半日雨が降り続けていたら、そのときに避難はどうするということにまで話は及びました。こういったふだんからの地域の話し合いがあることがとても大切で、そのことを全市に当てはめて地域のコミュニケーションを持つ必要があると気づかされました。この点、これからの市の取り組みについて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

地域とのコミュニケーションという立場でお話しさせていただきたいと思います。

確かに今回、台風19号、それ以前の部分もあると思うんですけども、やはり自治会の皆様、それと地区によっては地域振興会、もしくは自治振興会と申しましょうかね。こういった住民の自主運営組織というのは非常に大事だと思います。そういった人と人とのつながりというのはふだんから、こういうときにはどうするんだという、そういったところを常に考えておくというのは、非常に大変重要なことだというふうに思っております。

今回の件につきましても、自主的に避難所を開いたという地区もございましたし、日ごろやっぱり地域の中でのつながり、コミュニケーションの強さというのは非常にあったのかなというふうに思っております。今後とも私どもの企画定住課としましては、地域へ出向くときにいろんな地域とのつながりを非常に大事にしながら、地域と地域との助け合い、つながり、それと行政との連絡・連携、こういったところを密にしながらコミュニケーションをしっかりとっていく必要があるというふうに改めて思われたというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく申し上げます。

では、糸魚川市駅北大火からの教訓と備え、防災教育・防災視察の現状と課題等について、2回目の質問です。

大火の原因となった火元の建物構造、木造密集地域の都市構造、改めて担当課より詳しく説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

火元建物は、木造2階建て、延べ面積135.8平方メートル、昭和11年新築で、昭和29年と昭和32年に増築しております。外壁は、主に1階はモルタル塗り壁、2階は窯業系のサイディング、普通ガラス、屋根は日本瓦と板金となっています。被災地は昭和35年に準防火地域に指定されるとともに、昭和48年には用途地域における建蔽率が80%と定められましたが、多くの建物がそれ以前に建築されたもので、こちらの建物もそうですけども、これらの要件を満たさない建物、それが多かったというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

火元の店舗と近隣は、木造の間口が狭く奥行きが長い店舗が連担する長屋で、周囲に空き地もなく、出火箇所に消火の水が届きにくい、こういった場所が市内の随所にも見られ、全国にも数多くあります。そこで出火し、強い風が吹けばどうなるか。その恐ろしさを私たちは忘れてはいけないと思います。今後の対策と市民全体での意識の共有、視察に来る方々にいかに伝えるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

今回の大火を風化させないように訓練を積み重ねていきます。まずは、火事を出さない防火意識と、早期通報、消防車が来る前の住民による初期消火の重要性を、市民全体で共有を図っていきたいと思っております。それから多くの消防関係者、それから自治会の皆さんが視察においでいただいております。これらにつきまして、消防職員等から大火の映像等を見ていただきながら、大火の実際をご説明させていただいております。それにつきまして、引き続き続けていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

今ほどのことに補足させていただきますと、市内には今回の被災地と同様に、木造住宅が密集しておるという地区が多数ございます、点在してございます。それらの地区につきまして、糸魚川市のほうでは木造住宅密集地区防災事業というものを大火があつてから設定いたしまして、市内にモデル地区というところを選びまして、その中で具体的にはソフト事業がどちらかというところになるのですが、その中でも40ミリホースの追加配置ですとか、今ほど消防長が答えた訓練の実施、また地域の意見を踏まえまして、例えば市道ではないんですけど通路、避難路になり得る通路の部分に手すりをつけたりとか、そういう足元の部分から地道な防火対策というものを進めておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今後の対策について伺いました。この機会に、もう少し出火が拡大していった原因等について、私、ここでお話を聞きたいんですけども、火元で火が燃え上がり、屋根を燃え抜けてしまった原因、これは何だったのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

こんろの消し忘れにより、中華鍋が過熱し、出火したわけですけども、こんろ及び壁に付着しておりました油かすが発火、壁表面に延焼した炎は、上部の天蓋、ダクトの中の油かすに延焼し、ダクトに沿って比較的早い段階で2階まで延焼が拡大したものの、それが原因だというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

たくさんの油を使う飲食店の厨房のフードに可燃物が多く付着し、こんろ回りの壁も表面はステンレスでも下地の木材が炭化して、燃えやすくなっていたと推察します。また、道路からの初期消火において、木造商店に特徴的なパラペットといわれるフロントの壁の立ち上がりが水をはじき返してしまい、そのパラペットを超すように消火しようとして上向きに放水し、それが強風にあおられて火元に届かなかつたのではないかと推察しますが、この点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

消防隊が現場到着時に火元建物の奥から2階にかけて炎上しておりましたので、屋内へ侵入する活動は安全が確保できないため、市道中道線広小路側から2線で2階の窓、それから屋根越しの放水ということで対応いたしました。確かにパラペットに水がはじかれる場面もありましたけども、窓から、あるいは別の場所からの筒先による有効な放水は継続できたものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それと飛び火による延焼拡大の状況について、担当課より詳しく説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

消防のほうでは、最大限の7台、26台で出動して、消火活動に当たったんですけども、飛び火が10カ所、フェーン現象による風で10カ所飛び火がしまして、最初の飛び火は出火から約1時間後、100メートル先の住宅で確認されておりますけども、フェーン現象による10カ所の飛び火がいたしました。強風の中、多くの燃えさしが飛びまして、瓦のすき間から炎が入って延焼したものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

飛び火による延焼拡大については、私も現場で見えていましたが、風に乗ってたくさんの燃えた木片の塊がまるで鳥の群れのように飛んで、100メートルも離れた家屋の屋根に燃え移りました。そして恐らく、築80年の家屋の屋根裏から燃え下がって、連担して建つ町屋で構成された町全体に燃え広がったのではないかと推察します。改めて、飛び火と延焼のメカニズムについて、ご説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

今回の大火では、火元及び延焼先から大量の火の粉や燃えさしが広く飛散しまして、風下側の木造建物への飛び火により同時多発的に延焼が拡大しました。建物が焼損しておるため、個々の飛び火事例の詳細に関する情報収集には制約がありますが、残った建築物の状況、それから消防隊



や住民の目撃した燃焼の様子を勘案すると、屋根やその周辺の建物上部において、瓦等のすき間から火の粉の進入等により出火に至ったという事例が多いというふうと考えられます。

また、国土道技術政策総合研究所及び建築研究所の調査研究によりますと、昭和初期仕様の瓦には、すき間が多く、そのすき間に侵入した火の粉が屋根下地にある、まきこっぱ、あるいは瓦棧、ここに着床して燃焼が継続し、やがて屋内側へ燃え抜けたものであるということで、実験研究では風速5メートルでは確認できずに風速10メートル以上で確認できたということから、やはり瓦のすき間に入った火の粉、燃えさしによるものというふうを考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

本町通り商店街の道幅は、約10メートルありますが、南側の建物の塊が一斉に燃えると、道を超えて北側の建物に火の手が伸びて、あっという間に延焼していきました。その先は私も見ていません。

ただ、建てて数年の、屋根と外壁が防火構造の私の知人の家も鉄骨の建物もみんな燃えてしまったということです。これ以上の話は胸が痛くなるばかりですが、その状況についてもご説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

飛び火による延焼や強い火勢に伴う放射や炎が接することによりまして、道路を超えての延焼が耐火建物、耐火建築物においても網入り以外のガラス窓、ガラスが割れまして、窓から炎が入るといようなことから焼損したものと考えられます。火柱は約30メートルまで登り、強風により横に向いてなびいていた。それから、なびいたばかりではなくて、強い火勢による放射や接炎は、北側の風下方向だけではなくて、ゆっくりではあったが、南側の風上方向へも延焼が拡大したという状況だったというふうなことから、飛び火したところから反対に北から南へ燃え広がったという部分もあるということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

多くの市民が財産を失った大きな大きな犠牲の上にさまざまな教訓をいただいたのではないのでしょうか。それをもって、これから同じような火災を起こさないように多くの人に多くの町に確かに伝え、時には指導に当たることが糸魚川市の使命と思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

先ほども少し触れましたけども、全国各地から、いまだに多くの視察の方がお見えになっておられますし、講演会に職員あるいは消防団長が行って、講演してくるということもございます。そういうところにおきまして、糸魚川の大火の経験、教訓を、それからそれを捉えた我々の課題、取り組みを伝えまして、啓発していきたいと思ひますし、市内におきましても出前講座、それから消防訓練等の際に大火の教訓を生かした訓練を計画しておりますし、大火の話伝えながら市民の皆さんに二度と起こしてはいけないという意識づけ、啓発を行っているところであります。この火災の記憶を風化させない取り組みということが本当に重要だと思ひておりますので、引き続き情報発信に努めていきたいと思ひております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大火の記憶のコンテンツ、展示方法、解説について、改めて詳しく説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

大火の記憶コンテンツ、こちらは駅北広場への建物での展示内容ということでご紹介させていただきたいと思ひます。

基本的には、バナーとって立て看板のような、そういったもので大火の概要やなぜに南風が強かったのか、吹くのか、糸魚川では。それから大火の歴史、それと今まで進んでいる駅北復興の内容等、それから未来へ向けたまちづくりといった紹介をさせていただくとともに、一部ではプロジェクターを使った映像展示も行いたいと考えておりますし、バナーと一緒にショーケースにおいて、大火を受けた消防機材や、それから住宅等にあった書籍とか、そういった被害を受けた、大火を受けた遺物、そういったものを実物として展示すると。そういったことを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

展示方法の概要は、特別委員会でも説明を受けておりますのでわかるんですけど、問題は解説等についてだと思ひますよね。やはり伝わらなければというところがあると思ひます。この辺どのように工夫されていくのか伺いたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

総務課のほうでは、映像の部分を担当しております。ここでは、子供用と大人用の2本の映像を流すことにしております。

子供用のほうですが、今回の火事の原因、それから今お話あった気象状況や延焼が拡大した理由、そのほかに子供のためになぜものが燃えるかという、燃えるもの、熱、酸素といった学習も絡めて話す中で、火を消すにはどうすればいいか。そして、火事で怖いのは煙なんで、煙があったら、すぐ逃げよう。それから今、こども消防隊の取り組みがありますんで、そういった中身を伝えながら、映像をもって子供たちにもわかりやすいコンテンツとして今仕上げているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川には、大火の歴史があります。相馬御風が自宅を焼失した昭和3年の大火、昭和7年の大火、昭和29年の大火など、糸魚川の大火と復興の歴史の詳細は、どのように展示され、また解説をされますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

こちらは、先ほど言った展示バナーで、大火の歴史についても展示したいというふうに考えております。当然、文章もありますが、やはり映像、そういった画像、そういったものも重要かと思っております。そういった昔の大火を受ける前の町並みの中で、どのような町並みだったか、特に駅前通りでは、イチョウ並木とかそういったような過去の、以前からの大火からのことを考えての並木があったよとか、そういった歴史を紹介したり、「おないれ」という生活文化もありましたので、そういったものも紹介させていただくというような内容で、現在考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

相馬御風が自宅を焼失しながらも周辺の皆手を助けて、一生懸命復興に取り組んだこと、あるいは昭和7年の大火からの復興、これを進めて、そのお祝いに糸魚川小唄を作詞したことなども、とても大事な糸魚川の歴史だと思いますが、そういったものはどのように扱われていきますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

やはり昭和7年とかの大火を受けて、そこから燃える以前の町並みができたわけです。そういったものはご紹介していこうというふうに考えておりますし、あと大火を受けての神社の配置とかいろんな歴史をひもとくと、話題がございます。全てを最初から展示というのはなかなか難しいですが、ピックアップした中で今回、大火の歴史についても展示してくというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大火1年事業復興まちづくりシンポジウム2017に寄せられた子供たちのメッセージの取り扱い、そこで描かれた絵画、糸魚川の未来の絵、これについては先ほど教育長からお話を聞きましたが、これをどう生かしていくかということも大事なことだと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

大火1年事業につきましては、大火後1年を迎える中で、大きくこの事業の目的として大火の経験を踏まえた防災意識の向上と復興まちづくりへの機運醸成、これを目的に1年事業については企画し、運営してまいりました。

今ほど議員からお話のありました児童の作品展示につきましては、ホールでのシンポジウムとエントランスでの展示という2本柱の1つのものでございます。これにつきましては、こうした絵画と標語の作品づくりを通して子供たちに防災と糸魚川市の復興について意識してもらおうという、こういったことを主目的としてお願いしておりました、その時点で活用等については、特に目的はしておりませんので、現在データとして保存している状態になっております。絵画のほうは、皆さんにお返ししましたので、標語のほうのデータはございます。今後また、大火の記憶をしっかりとつないでいくといったところで活用していけるというふうにも考えられますので、検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

以上、伺ってきたコンテンツを駅北広場建物に展示し、解説するということよろしいですか、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

大火の記憶をつなぐ、そのコンテンツにつきましては、現在、展示する場所につきましては、駅

北広場の建物内ということで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

駅北広場の建物のエントランスでは、スペースが少なく、中途半端な防災教育、防災視察の展示と解説となることを心配していますが、今の進め方で大丈夫でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

確かに限られたスペースではありますが、できるだけ印象深く皆様に大火、それからの復興、そういったものを見ていただく、学んでいただくものとして工夫を凝らして展示していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

防災視察の状況を伺います。

これまで防災視察に来てくださった人数は、把握されていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

大火発生から直近までの視察等の受け入れ状況でございます。560件、延べ人数で1万400人を超えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

駅北広場完成後に防災教育や視察に来た人、たくさん来ると思いますが、この駅北広場来訪者になるのか、それとも利用者になるのか、そのあたりの区分けはどうなりますか。

〔「反問お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

反問を許します。

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

申しわけございません。今ちょっと私よく聞き取れなかったので、もう一度ご説明いただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

駅北広場完成後に防災教育や視察に来る人大勢見えると思いますけども、駅北広場来訪者になるのか、それとも利用者となるのか、そのあたりの区分けはどうなりますかということで伺いました。

○議長（中村 実君）

反問を終わります。以上で反問を終了します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

この辺の区別については、まだ細かく話はできておりませんが、今の私の考えでいきますと利用者という形にカウントする中で、利用の目的で、また視察の方といったようなまた区分けの仕方でも利用者状況がわかるような、そういったことがよろしいのではないかなというふうにイメージしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この先の質問は、改めて伺いたいと思います。

では、糸魚川市の責任で進める糸魚川市駅北復興まちづくり計画についての2回目の質問です。

駅北広場建物のイメージについてということで通告いたしました。先ほど市長からは、利用のイメージをお答えいただいたんですけど、通常建物のイメージというと外観ですとか、そういうことのデザイン、そういうことのイメージはどうですかというふうに私聞いたつもりだったんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

駅北広場の建物のイメージということでございます。基本的には、要は機能といいますか使われる機能、使われ方、そういったことがやはり地域づくりのスタートの場所ということで、交流できるホールや大火の記憶を伝承するエントランス、それからまちづくり、起業・創業にチャレンジできるキッチン・厨房といったこと、そういったことをやはり入りやすく、使っていただきやすい、そういった雰囲気を建物全体としてイメージできないといけないかなといった部分ではなかろうか

と思います。そういったことで、入りやすい、敷居の低い、そういったイメージの建物、ですので非常に建物の形、形状等についてはシンプルなものとなっているふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

建物のイメージについてですが、伝統的な町並みを再生すると計画に定めたところへ、どうして工場か倉庫のような建物をお建てになるのか、その意味、改めて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

やはりまちづくりのスタートの場所といったところ、そういった中での、入ってきてもらいやすさ、そういったことをイメージして、今回の内容になっているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

デザイン決定と承認のプロセスに違和感があります。当初計画にないものが、建物完成間近になって特別委員会でいきなり担当課より、設計者から当初の段階から提案してきていただいた内容だと説明がありましたが、工場とか倉庫のイメージにしなければいけない理由が私にはわかりません。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

形状は、議員おっしゃるとおり倉庫、そういった工場をイメージさせるような、そういった外観になっていると。これはやはり先ほどから私申し上げているとおり、入っていただきやすい、みんなが気楽に中を使っていただきやすいというイメージから生まれているものと思っております。

ただ、その中でも屋根の形状や建物の全体の高さ、それから色彩、そういったものについては、市のほうで示しているガイドライン等に沿ったものになっているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

デザインのよしあしは、ここで述べるべきではないと考えますので、後は市民の声を聞いてみたいと思います。

さて、復興まちづくり計画、この随所に出てくるにぎわいの拠点、ざっと数えたら10カ所に記

載があり、市民の期待も大きいプロジェクトであります。そして、2019年度に基本構想と基本計画がまとまる予定となっていました。これはどうなりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

にぎわいの拠点施設につきましては、昨年度から、まちづくり市民会議、そういったものの中で、にぎわいを考えていただく、そういった方々の中で拠点についても市のほうでは子育て世代を中心な施設にしていきたいというような提案をさせていただいております。今、その提案を受けて、その機能だけでよいのかとか、もう少し時間をかけて、やっぱり事業費、それから運営、そういったものを考えた上での、まだ時間をかけての検討が必要でないかというようなご意見もいただいております。そういったご意見を踏まえ、ことし7月からになります。駅北まちづくり会議というものをつくり、それは昨年の市民会議の内容も受けながら、復興まちづくり計画は令和3年度までです。その先も見据えた中長期的な駅北のまちづくりを皆さんで考えていただきたいということをお願いしているものです。その中で、拠点施設についても、昨年の市民会議でいただいている、宿題になっているというふうに感じておりますが、そういったものも解決していけるのかどうか、そういったあたりを、また駅北まちづくり会議の皆さんに市のほうからもお話ししながら、皆さんのアイデアもいただきながら今後検討していく、そういったことで、現在、当初に予定していたとおりにはなかなかできませんで、少し延びているといった状況になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

検討が長引いて、プロジェクトがおくれているというのはわかってるんです。土地の確保はどうしましたかということをお伺いしています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

やはり用地の確保については、施設の機能、それから規模、そういったものが総合的にある程度の形、計画が見えた時点で、敷地がどのぐらい要るのかとかいう、そういったお話になります。ですので、そういった用地取得のお話については、もう少し計画が形になってこないといけないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

何をする、何をつくるにおいても、ベースとなる土地の確保ができていないものが信用されず



か。倉庫か工場に見える建物建設とは違い、こちらは復興まちづくり計画に明記されていますよ。施設機能は検討中でも、土地確保と施設整備のスケジュールを市民に示すことが市の責任です。ベースとなる土地とプロジェクトへの投資額を明らかにしてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まちづくり会議であったり、また今検討いただいている会議の中でもお答えしてきておりますし、また、議会の中でもお答えいたしておりますように、やはりにぎわいの拠点につきましても、早急につくった計画の中でしっかりと夢を持ちながら進めていく中心にあったわけでありまして、

しかしながら、ご承知のとおりにぎわいというのは、そう簡単にできるものではございません。市民の皆様方とつくり上げていくもの、また被災者の皆様方とつくり上げていくもの、今そういったところをご検討いただいております。ですから、面積にいたしましても今変化しとるのは、復興広場が新たに立ち上がっている部分がございます。

そのようなことで、にぎわいについてはやはり進めておりますし、またこれから30年先も考えたまちづくりの中においては、どうしてもそういった拠点というのは、しっかり腰を据えていかなくちゃいけない問題だろうと思っております。災害復旧・復興の中で進めておるわけでありまして、そういったところはやはりしっかりと地域の皆様方と手を携えてつくって行って、同時スタートしなくてはなりません。行政が確かに復興計画はつくりました。つくったからといってにぎわいの部分はちょっと私は違うところにあると思っております。ですから、復旧は急いでやっても、復興は少ししっかりと時間をかけながら、私は進めていきたいと思っておる次第でありまして、また今想定しておるエリアだけでいいのか、もっと広がる可能性もあるでしょうし、また逆にそれは要らないという方向も出てくる可能性もあります。そういったところを踏まえながら、皆さんの意見を聞きながら市としての判断をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

要らないという可能性が出てくるということもあろうかと思っておりますというのは、じゃあ会議にその結論を委ねるということですか、人任せじゃないですか、市長が決めることじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まちづくりの最終決定は、今このまちづくりといたしまししょうか、復興計画につきましても、市が判断するものでありますが、しかし、内容は市民と一体、被災者と一体と進めるものについては、

そういった皆様方と詰めながら決定させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今の市長行政の対応では、時がたつほどに実現不可能なもの、絵そらごとを感じられてまいります。来年度の予算編成も始まります。市行政が責任を持って進める復興まちづくりが、市民の信頼を得られるように改めて市長にお願いしたいところです。改めて米田市長の所見を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

申し上げます。

非常に厳しい経済環境の中において、当然、行政運営も厳しい状況にあります。そして、まちづくりについては、行政だけでできるものではございません。市民の皆様方と一体となつてつくっていくものでございますので、慎重を期して進めていきたいと思っております。当然このまちのにぎわいは、この行政においても当然、市民の皆様においても望むものであるわけでございますので、基本的には変わっておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

基本的に変わってないというお話だったんですけども、これはやっぱり基本を変えてしまいかねないようなお話だったと思うんですね。せっかくつくったこの計画ですけども、この計画の内容が変更になっていく、そのことを今お話しされたんですよ。物すごい心配ですよ。期待してる人多いです、市民に。何とかしてくれと。この声を実現するのが、市長行政なんじゃないでしょうか。終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

15時10分まで休憩といたします。

〈午後2時55分 休憩〉

〈午後3時10分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。